

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

EXPRESSBUILDER(→154ページ)	.セットアップツール「EXPRESSBUILDER」につ いて説明します。
Express本体用バンドルソフトウェア(→162ページ)…	.CPUブレードに接続されたハードディスクにイン ストールするバンドルソフトウェアについて説明 します。
管理PC用バンドルソフトウェア(→169ページ)	.システムを監視・管理するための管理PC にイン ストールするバンドルソフトウェアについて説明 します。
ディスクアレイソフトウェア(→180ページ)	.オプションのディスクアレイコントローラを管理 するためのソフトウェアについて紹介します。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、保守用の各ユーティリティをメニュー形式で実行する統合ソフトウェアです。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニュー や項目が異なります。

● EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

EXPRESSBUILDERを本装置のCD-ROMド ライブにセットして起動し、 EXPRESSBUILDER内のシステムから起動す る方法です。この方法で本装置を起動すると 右に示す「EXPRESSBUILDERトップメ ニュー」が表示されます。

このメニューにある項目から本装置をセット アップします。





EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメ ニュー」を参照してください。

● コンソールレスでEXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

キーボードやマウス、ディスプレイ装置を本 装置に接続していない状態で EXPRESSBUILDERを本装置のCD-ROMド ライブから起動するすると、LANかCOM(シ リアルポート)で接続している管理用コン ピュータ(PC)の画面には、右に示す「ツール メインメニュー」が表示されます。

管理PCからこのメニューにある項目を使っ て本装置を遠隔操作をします。





- 本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた本装置以 外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。
 - コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、以下の動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

EXPRESSBUILDERメインメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows (Windows 95以降、または Windows NT 4.0以降)が起動した後に、 EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブに セットするとメニューが表示されます(右図 参照)。表示されたメニューダイアログボッ クスは「マスターコントロールメニュー」と呼 びます。

マスターコントロールメニューについてはこ の後の「マスターコントロールメニュー」を参 照してください。



EXPRESSBUILDERトップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティ ングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

■● BIOSの設定を間違えると、CD-ROMから起動しない場合があります。
 ■● EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOS SETUPユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

「Boot」メニューで「CD-ROM Drive」を1番上に、「Removable Devices」を2番目 に設定する。

起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

- 1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
- 2. 本装置のCD-ROMドライブへEXPRESSBUILDERをセットする。
- CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源を OFF/ONして本装置を再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。



ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDER に収められている各種ユーティリティを 個別で起動し、オペレータが手動でセッ トアップを行います。 また、システム診断やサポートディスク

の作成を行う場合も、ツールメニューを 使用します。次にツールメニューにある 項目について説明します。

Express5800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver3.xxx-x Copyright(C) NEC Corporation 2003				
ツールメニュー	RAID2/R0-5:検出 総ディク数:1 ドック内ディクク数:1 25川・行・クク数:1 RAIDIA*15:7 ライドモート*:WRITE_THRU 保守用パーティクジン:あり			

● オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユー ティリティです。詳細は214ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

● システム診断

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を 検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログ ラムが起動します。185ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してく ださい。

サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピー ディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのイ ンストールの際に必要となるサポートディスクを作成します。なお、画面に表示された タイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

- Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows Server 2003 Standard Editionをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します。

- Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000 Serverをインストールするときに必要となるサポートディスクを作 成します。

- ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

- システムマネージメント機能

BMC(Baseboard Management Controller)による通報機能や管理用PCからのリ モート制御機能を使用するための設定を行うプログラムの起動用サポートディスクを 作成します。 ● 各種BIOS/FWのアップデート

NEC 8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWの アップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『NEC 8番街』: http://nec8.com/

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでくださ い。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

● システムマネージメント機能

BMC (Baseboard Management Controller) による通報機能や管理用PCからのリモート 制御機能を使用するための設定を行います。

• ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、本装置にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種 セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレ ス|機能を持っています。

- 本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた本装置以外の -0 Express5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。 重要
 - コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本 体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断 し、コンソールレス動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

記動方法

起動方法には管理PCと本体の接続状態により、次の2つの方法があります。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続(シリアルポート2)された管理PCから実行する

記動方法の手順については、この章の「MWA I--「コンソールが接続されていない場合のコン フィグレーション方法 を参照してください。

- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。 **H**-O CD-ROMドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。 重要
 - LAN接続はLANポート1のみ使用可能です。
 - ダイレクト接続はシリアルポート2のみ使用可能です。
 - コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、設定情報を格納したフロッピーディ スクが必要になります。 フォーマット済みのフロッピーディスクを用意しておいてください。
 - BIOS SETUPを通常の終了方法以外の手段(電源OFFやリセット)で終了するとリダイ レクションが正常にできない場合があります。設定ファイルで再度設定を行ってくださ い。

[<u>L</u>]

BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- Serial Port 2:
- [2F8.IRQ3] BIOS Redirection Port:
- Baud Rate:
- [SerialPort B] [19.2k]
- Flow Control:
- Terminal Type:
- [None] [PC ANSI]

ツールメニュー

メインメニューでツールを選択すると以下のメニューが表示されます。 ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」の 項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能に ついては、前述の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。





「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると次の 点が異なります。

- 「システム診断」の内容や操作方法(詳しくは、185ページを参照してください)
- 「サポートディスクの作成」で作成できるディスクの種類

マスターコントロールメニュー

Windows (Windows 95以降、または Windows NT 4.0以降)が動作しているコ ンピュータ上でEXPRESSBUILDERを セットするとメニューが表示されます。表 示されたメニューダイアログボックスは 「マスターコントロールメニュー」と呼びま す。





システムの状態によっては自動的に 起動しない場合があります。そのよ うな場合は、CD-ROM上の次のファ イルをエクスプローラ等から実行し てください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、オンラインドキュメントの参照や各種ソフトウェアのインストールなどができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。こ のファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインス トールされている必要があります。Acrobat Reader がインストールされていないときは、 はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Reader をインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をク リックするか、右クリックで現れるポップアップメニューから行います。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

Express本体用バンドルソフトウェア

CPUブレードにバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは本装置にインストールするサーバ監視用アプリケーションです。 EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができま す。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインス トールの手順を説明します。



- ESMPRO/ServerAgentの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgentインストレーションガイド」を参照してください。
- ブレード収納ユニットのIDは0-Fと筐体IDスイッチ(ロータリースイッチ)に書かれてい ますが、ESMPROでの表記は1-16になります。

SystemGlobe DeploymentManager Liteを使ったインストール

SystemGlobe DeploymentManager Liteに添付のドキュメント「SystemGlobe DeploymentManager Liteユーザーズガイド」および「ESMPRO/ServerAgentインストレーションガイド」を参照してください。



SystemGlobe DeploymentManager LiteからESMPRO/ServerAgentをインス トールする場合は、必ずSNMPサービスもインストールするようにしてください。

EXPRESSBUILDERからのインストール

添付のEXPRESSBUILDERからインストールする場合の方法について簡単に説明します。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはWindowsのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

● SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」か ら変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同 じ名前を入力します。

インストール

Express5800シリーズにインストールしたOSが 起動した後、Autorunで表示されるメニューから [ソフトウェアのセットアップ]-[ESMPRO]-[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてく ださい。以降はダイアログボックス中のメッセー ジに従ってインストールしてください。



 Mylexディスクアレイコントローラを 監視する場合は、Global Array Managerをインストールする必要が あります。オプションのディスクアレ イコントローラに添付の説明書を参照 してインストールしてください。



ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当て を行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコン ピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされている ことを確認してください。

- 1. Express5800シリーズ本体を再起動する。
- 2. イベントログを開く。
- 3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないこと を確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからイン ストールし直してください。

注意事項

ESMPRO/ServerAgentを使う場合には、「ESMPRO/ServerAgent インストレーションガイド」に記載されている補足事項に加えて、以下の点に注意してください。

筐体センサの通報について

Express5800/BladeServerの場合、筐体センサで障害が発生した際には、ブレード収納ユニット内のすべてのブレードサーバから通報が行われます。 個々のブレードサーバからの筐体センサ異常通報を抑止する方法は以下のとおりです。

● ESMPRO/ServerAgentのプロパティから行う場合

[ブレードサーバ]タブを選択し、[通報する]のチェックをはずす。

● ESMPRO/ServerManagerのオペレーションウィンドウから行う場合

オペレーションウィンドウにて、該当ブレードサーバアイコン、もしくはブレードアイ コンを右クリックし、メニューから[ブレード筐体センサ通報設定]を選択する。

[ブレード筐体センサ通報設定]ダイアログボックスが表示されるので、通報を抑止する ブレードサーバのチェックをはずす。

● ESMPRO/ServerManager Webコンポーネントから行う場合

通報を抑止するブレードサーバの[ServerAgentコントロールパネル]を起動する。[ブ レードサーバ]タブを選択し、[通報する]のチェックをはずす。

電源監視について

Express5800/BladeServerの場合、装置の仕様により冗長構成時の電源監視について以下のように動作します。

● ESMPRO/ServerManagerのデータビューアの[ESMMIB]-[システム環境]

[電源]の[個別状況]には、常に一つのステータスのみを表示します。このステータス は、個々の電源の状態だけでなく電源全体ステータスを表します。

ESMPRO/ServerManagerのデータビューアの[ESMMIB]- [システム環境]

[電源]の[冗長電源]は、常に「未サポート」と表示します。

電源の障害が発生した場合

常に「電源モジュール1」または、「電源ユニット1」にて発生したと通報します。障害の発生した電源を特定するには本書の「ハードウェア編の「ランプ表示」を参照してください。

通報手段について

COMポートを使用する以下の通報手段は使用できません。

- ページャ通報
- ALIVE通報
- マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band 通報)

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守 情報含む)を電子メールで保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速 に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作す るシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させること ができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている 場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっておりま す。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報 サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあ るオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照し て設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらか じめ準備してください。

● 本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済 みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細について は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

● 通報開局FD

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FD が到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

- 1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
- [全般]タブの[通報の設定]をクリックする。
 アラートマネージャ設定ツールが起動します。
- [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。
 [エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
- 4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。 エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ
 18.0MB以上
- ハードディスクの空き容量 30.0MB以上
- メールサーバ 電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要 です。

ソフトウェア

- 添付のEXPRESSBUILDER内のESMPRO/ServerAgent
- 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
- マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。
 ESMPRO/ServerManager* + ESMPRO/AlertManager Ver.3.4以降
 - * 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバー ジョン以上を使用してください。
 - (例) 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentの バージョン3.8の場合、バージョンが3.8以上のESMPRO/ServerManagerが 必要です。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

● 本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済 みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細について は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

● 通報開局FD

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FD が到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールで保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守 サービス会社にお問い合わせください。

管理PC用バンドルソフトウェア

CPUブレードをネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェ アについて説明します。

SystemGlobe DeploymentManager Lite

SystemGlobe DeploymentManager Liteがインストールされている管理用PCからネット ワーク上に接続されているプレードサーバに対して、BIOSのアップデートやOSのクリアイ ンストールなどの導入・管理が可能です。

SystemGlobe DeploymentManager Liteのインス トール

SystemGlobe DeploymentManager Liteは、CD-ROM[EXPRESSBUILDER]を使って管理 PCにインストールします。

- 1. Windowsを起動する。
- 2. EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットする。

AutoRun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

 [ソフトウェアのセットアップ] –
 [SystemGlobe DeploymentManager Liteのセットアップ]をクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもポッ プアップメニューが表示されます。

SystemGlobe DeploymentManager Liteのインストーラが起動します。

 インストーラの指示に従ってインストー ルを完了させる。



SystemGlobe DeploymentManager Liteの機能

SystemGlobe DeploymentManager Liteは、DHCPサービスとの連携により以下の機能を 実現しています。

● BIOS/FWのアップデート

BIOSやFWのアップデートのFDイメージをネットワークを介して配信することができま す。フロッピーディスクサイズ(1.44MB)までのものに限りますが、自作したFD単体と して起動できるように作成したツールをSystemGlobe DeploymentManager Liteを使用 して配信・実行することもできます。

• OSクリアインストール

Windows系OSに加え、Red Hat Linuxをリモートでネットワーク上のコンピュータに インストールすることが可能です。また、Windowsのインストールでは、コンピュータ 毎のOS設定(ホスト名など)は、あらかじめパラメータファイルを作成しておくことで自 動セットアップが可能です。

■ OSクリアインストールでは、以下のOSのインストールをサポートしています。 「正要

- Windows Server 2003 Standerd Edition、Windows 2000 Server
 - Red Hat Linux(詳細はSystemGlobe DeploymentManager Lite ユーザーズ ガイドをご覧ください。)

● SP/Hotfixの適用

Windows Server 2003 や Windows 2000のサービスパックやHotfixをリモートでインストールできます。この機能は、OSクリアインストールと同時に設定する必要があります。

AutoRaid

EXPRESSBUILDERに添付されているAutoRaidツールをSystemGlobe DeploymentManager Liteで使用することができます。リモートによるRAIDコンフィグ レーションを行うことができます。

• システムアップデート

CD-ROM[EXPRESSBUILDER]に添付されているシステムのアップデートツールを SystemGlobe DeploymentManager Liteで使用することができます。

● シナリオ機能

BIOSアップデートやOSクリアインストールなどの機能を使用するとき、シナリオという単位に各機能を設定して実行します。簡単な操作でそれぞれの機能を自由に設定することができ、一度作成したシナリオは何度でも使用することができます。また、オプション設定も可能で、要求に応じて柔軟に対応できるシナリオを作成できるようになっています。

管理者が、誤操作や第三者の不用意な操作によるPCの破壊を未然に防ぐため、パスワードやメッセージによりシナリオ実行やシナリオ中断などをガードします。様々な項目で、なし、警告、パスワードの3種類のガードが選択可能で、それぞれの項目で用途に合わせて設定できます。



機能の詳細や実行方法は、SystemGlobe DeploymentManager Liteユーザーズガイドを ご覧ください。ユーザーズガイドは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」の以下の場所の ファイルです。

CD-ROMドライブ¥DPML¥MANUAL¥users_guide.pdf

SystemGlobe DeploymentManager(製品版)との機能差分

CD-ROM[EXPRESSBUILDER]には、SystemGlobe DeploymentManager Liteが添付され ていますが、製品版として、SystemGlobe DeploymentManagerがあります。 SystemGlobe DeploymentManagerには、Lite版にはないバックアップなどの保守の機能に 加え、各種機能が強化されております。 以下にその詳細を示します。

機能	製品版	Lite版
BIOS/FWのアップデート	0	0
OSクリアインストール	0	\bigcirc
SP/Hotfixの適用	0	○*1
アプリケーションのインストール	0	○*2
リモートアップデート	0	×
バックアップ/リストア	0	×
ディスク複製インストール	0	×
AutoRaid	0	0
システムアップデート	0	0
PULL型シナリオ実行	0	×
シナリオスケジュール管理	0	×
電源ON/OFFスケジュール管理	0	×

○: サポート X: 未サポート

(注意)

- *1 SystemGlobe DeploymentManager Liteでは、単独でのSP/Hotfixの 適用はできません。OSクリアインストールと同時に実行する必要が あります。
- *2 SystemGlobe DeploymentManager Liteでは、OSクリアインストール と同時に設定した時のみCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に含まれ る以下のアプリケーションのインストールが可能です。

- ESMPRO/ServerAgent

- エクスプレス通報サービス

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたシステムをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたは ESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のEXPRESSBUILDER内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」を参照してください。

MWA - Management Workstation Application -

MWA は、ネットワーク上から管理PC (ESMPRO/ServerManager が動作しているコンピュータ)を使用して、Expressサーバをリモート管理するためのアプリケーションです。 Express5800シリーズの運用管理を行う管理者の負担を軽減させることができます。



MWAのセットアップと運用に関する詳細な説明については、EXPRESSBUILDER内の以下のパスに格納されているオンラインドキュメント「MWAファーストステップガイド」を参照してください(EXPRESSBUILDERの「マスターコントロールメニュー」からも開くことができます)。

CD-ROMドライブ:¥mwa¥doc¥jp¥mwa_fsg.pdf

機能と操作方法に関する詳細な説明については、MWAのオンラインヘルプを参照してくだ さい。

通信方法

MWAを使用する管理PCがLAN、WAN、ダイレクト(シリアル(COM)ポート)のいずれかの 方法でExpress5800シリーズと接続されていればMWAを使ったリモート管理ができます。



シリアルポート接続はシリアルポート2のみ使用可能です。LAN接続はLANポート1のみ 使用可能です。LANポートについては64ページを参照してください。

MWAの機能

MWAはExpress5800シリーズのシステムBIOSやベースボードマネージメントコントローラ(BMC)と接続することにより以下の機能を実現しています。

● リモートコンソール機能

Express5800シリーズのPOST実行画面およびROM-DOS/MS-DOSのブート中の実行 画面を管理PC上のMWAのウィンドウから見ることができます。またこの間、 Express5800シリーズを管理PCのキーボードから操作できます。

- 本装置では、LAN経由のリモートコンソール実行中に、BMCがCOM Bポートを独 占する場合があります。このとき、OS上からのCOM Bポートは使用不可となりま す。
 - 本装置でLAN接続によるリモートコンソールを実行する場合は、本装置の電源の ON/OFFは、MWAからリモートで操作してください。また、LAN経由のリモート コンソールは自動接続で実行してください。自動接続の設定はMWA ファーストス テップガイドを参照してください。
 - BIOS SETUPを通常の終了方法以外の手段(電源OFFやリセット)で終了すると Express5800シリーズ上のコンフィグレーションのリモートコンソール設定項目 が無効になる場合があります。

● リモートドライブ機能*

管理PC上のフロッピーディスクドライブまたは、フロッピーディスクのイメージファイ ルからExpress5800シリーズを起動することができます。

- * LAN接続時のみの機能です。
- リモート電源制御

管理PC上のMWAからリモートで、Express5800シリーズに対して以下の電源制御が行 えます。

- パワ-ON/OFF
- パワーサイクル (パワーOFFの後、しばらくしてパワーON)
- ー リセット
- OSシャットダウン*
- * 本コマンドをサポートしているESMPRO/ServerAgentがExpress5800シリーズ上 で動作している場合のみの機能です。

リモート情報収集

管理用PC上のMWAからリモートで以下の情報を収集することができます。

- システムイベントログ(SEL)
- センサ装置情報(SDR)
- 保守交換部品情報(FRU)
- BMC設定情報

● ESMPROとの連携*

Express5800シリーズのBMCからの装置異常などの通報を受信すると通報内容を解析して、ESMPROのアラートログへ自動的に登録します。

* LAN経由のみの機能です。

動作環境

MWAを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次の通りです。

● 管理PC(インストールするコンピュータ)

MWAは Windowsが動作しているコンピュータ上で動作します。詳細は「MWAファーストステップガイド」を参照してください。

● MWAでリモート保守する装置

Express5800 シリーズに添付のユーザーズガイドにMWAの記載がある装置。対象装置 には、RomPilot、BMCのいずれかが搭載されています。本装置にはBMC(IPMI Ver.1.5)が搭載されています。

MWAのインストール

MWAを使って本装置を管理するには、Express5800シリーズ本体側にMWA Agentを、管理PC側にMWA Managerをそれぞれインストールしてください。



MWA AgentはBMCをコンフィグレーションするためのツールです。Windows上からBMC をコンフィグレーションしたい場合にインストールしてください。MWA Managerから Express5800シリーズをリモート制御する際には、MWA Agentは必要ありません。

MWA Agentのインストール

MWA Agentは、EXPRESSBUILDERを使ってExpress5800シリーズ本体にインストールします。

- 1. Windowsを起動する。
- 2. EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットする。

Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

3. [ソフトウェアのセットアップ]-[MWA] の順にクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもポッ プアップメニューが表示されます。

4. [MWA Agent]をクリックする。

MWA Agentのインストーラが起動しま す。インストーラの指示に従ってインス トールしてください。



MWA Managerのインストール

MWA Managerは、「EXPRESSBUILDER」を使って管理PCにインストールします。

1. Windowsを起動する。

MWAが動作可能なOSについて、「MWAファーストステップガイド」を確認してください。

2. EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットする。

Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

3. [ソフトウェアのセットアップ]-[MWA] の順にクリックする。

> 上) 「ビント」 右図の画面上で右クリックしてもポッ

│ プアップメニューが表示されます。

[MWA Manager]をクリックする。
 MWAのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストール



コンフィグレーション

してください。

コンフィグレーションで必要なものは次のとおりです。

- EXPRESSBUILDER CD-ROM
- 設定情報

コンフィグレーションはMWA側とExpress5800シリーズ装置側の両方必要です。MWA 側ではリモート管理するExpress5800シリーズの装置台数分の設定情報が必要です。

Express5800シリーズ装置側のコンフィグレーションには2通りの方法があります。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからExpress5800シリーズを起動して実行する「システムマネージメントの設定」によるコンフィグレーションとExpress5800シリーズ装置のWindows上から起動するMWA Agentによるコンフィグレーションです。

詳細な手順についてはFEXPRESSBUILDERJCD-ROM内にあるFMWAファーストステッ プガイドJまたはMWAのオンラインヘルプを参照してください。

コンソールが接続されていない場合のコンフィグレーション方法

サーバにキーボードなどのコンソールが接続されていない場合、EXPRESSBUILDERを使って、サーバ側のコンフィグレーションをして、サーバ上のBIOS SETUPやDOSツールをリモート操作することができます。

次の2つの方法があります。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続された管理PCから実行する

LAN接続された管理PCから実行する

LAN接続されている管理PCから、以下の手順で実行します。

1. MWAをインストールした管理PCを起動し、スタートメニューから[プログラム]ー[NEC MWA] ー[MWA]の順にクリックする。

MWAが起動し、初期画面の「MWA Remote Control Manager」が表示されます。

📴 MWA Remote Control Manager						
ファイル サーバ 編集 表示 ツール	^⊮7°					
时 🕂 🗷 🕒 DC 🛛 All 🐰 🖻	Q 8					
	サーバ名	接続形態	電源状態	電源状態取得日時	IPアトレス/電話番号	
レディ						11.

- 2. フォーマット済みの1.44MBのフロッピーディスクを管理PCのフロッピーディスクドライブに セットする。
- 3. MWAの[ファイル]メニューから[コンフィグレーション]コマンドを選択して[コンフィグレー ション]ダイアログボックスを表示させる。
- 4. [新規作成]をクリックして[設定モデルの選択(新規作成)]ダイアログボックスを表示させる。
- 5. [FD書き込みを行う]にチェックし、管理対象装置のモデル名を選択する。

管理対象装置の種類に応じたコンフィグレーションダイアログボックスが表示されます。モデル 名は本体前面に印刷されています。

- 6. コンフィグレーションダイアログボックスで、管理対象装置の以下の情報を設定/登録する。
 - コンピュータ名(サーバ名。管理対象装置を示す任意の名前)
 - IPアドレス
 - ー デフォルトゲートウェイ
 - ー サブネットマスク
 - 1次通報先(管理PC のIP アドレス)
- 7. 以下のファイル名でフロッピーディスクに書き込む。

<コンフィグレーション情報ファイル名>

CSL_LESS.CFG

- 8. サーバ名を右クリックして表示されるポップアップメニューから[プロパティ]コマンドを選択して[プロパティ]ダイアログボックスを表示させる。
- 9. [プロパティ]ダイアログボックスが表示されたら、以下のように設定する。

<[ID]ページ> 接続形態: LAN <[アラート通知]ページ>

[標準設定を使用する]のチェックをはずして[アクティベート]のリセットにチェックする。

10. サーバ名を右クリックして表示されるポップアップメニューから[リモートコンソールの起動]コ マンドを選択して[MWA Remote Console]を開く。

皋 _重 MWA Remote Console - LAN192.168.1.249 Se ファイル 表示 データ ウイントウ ヘルフ [®]	erverA (Not connecte	d) 🔲 🗶
₩ % II N M 4	Auto ANSI	UTF8
LAN192.168.1.249 ServerA (Not connected))	
		-
		_
νī νī νī	LAN192.168.1.249	ServerA //

- MWA Remote Comsoleのサーバウィンドウ上で右クリックして表示されるポップアップメニューから[リモートコンソールの動作指定]コマンドを選択して[リモートコンソールの動作指定]ダイアログボックスを表示させ、[MWAモードで実行]を選択する。
- **12.** 管理対象装置のCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERをセットし、コンフィグレーション情報 ファイルを格納したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする。
- 13. 本体の電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

1回のリブート後、各種PCの画面上にメインメニューが表示され、ハードウェアのセットアップ、各種ユーティリティを管理PCから実行できるようになります。

フロッピーディスク内のコンフィグレーション情報ファイルの内容が管理対象装置に既に設定 されている場合は、リブートせずにメインメニューが表示されます。

- **14.** 管理PCの画面上にメインメニューが表示されたら、フロッピーディスクをフロッピーディスクド ライブから取り出す。
- MWA Remote Control Manager上でサーバ名を右クリックして表示されるポップアップメニューから[プロパティ]コマンドを選択して[プロパティ]ダイアログボックスを表示させ、[ID] ページで[接続チェック]をクリックして、対象装置との接続を確認する。

16. EXPRESSBUILDER CD-ROM以外のツールを使用する場合は、EXPRESSBUILDERを終了し、 CD-ROMドライブから取り出した後、MWAから電源OFF/ONする。

MWA Remote Control Manager上で、サーバ名を右クリックして表示されるポップアップメニューから[電源制御]コマンドを選択することでサーバの電源を操作できます。



ダイレクト接続(シリアルポート)された管理PCから実行する

本体のシリアルポートにダイレクト接続された管理PCから、以下の手順で実行します。

1. MWAをインストールした管理PCを起動し、スタートメニューから[プログラム]ー[NEC MWA] ー[MWA]の順にクリックする。

MWAが起動し、初期画面の「MWA Remote Control Manager」が表示されます。



2. MWAの[ファイル]メニューから[環境設定]-[ダイレクト接続設定]の順に選択し、「ダイレクト 接続設定」ダイアログボックスを表示させ、以下のように設定する。

<ダイレクト接続設定>	
ポート:	接続する管理PC側のCOMポート
ポートレート:	19200
フロー制御:	RTS/CTS

- 3. MWAの[ファイル]メニューから[コンフィグレーション]コマンドを選択して[コンフィグレー ション]ダイアログボックスを表示させる。
- 4. [新規作成]をクリックして[設定モデルの選択(新規作成)]ダイアログボックスを表示させる。
- 5. [FD書き込みを行う]にチェックし、管理対象装置のモデル名を選択する。

管理対象装置の種類に応じたコンフィグレーションダイアログボックスが表示されます。モデル 名は本体前面に印刷されています。

6. コンフィグレーションダイアログボックスで、管理対象装置のコンピュータ名などのコンフィグ レーション情報を設定/登録後、以下のファイル名でフロッピーディスクに書き込む。

<コンフィグレーション情報ファイル名> CSL_LESS.CFG

- 7. サーバ名を右クリックして表示されるポップアップメニューから[プロパティ]コマンドを選択して[プロパティ]ダイアログボックスを表示させる。
- 8. [プロパティ]ダイアログボックスが表示されたら、以下のように設定する。

<[ID]ページ>	
接続形態:	COM
COM :	ダイレクト(クロスケーブル)

9. サーバ名を右クリックして表示されるポップアップメニューから[リモートコンソールの起動]コ マンドを選択して[MWA Remote Console]を開く。

[MWA Remote Console]上にサーバウィンドウが開いていることを確認して[接続]をクリックする。

- 10. 管理対象装置のシリアルポートに管理PCをダイレクト接続する。
- 11. 本体のCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERをセットし、コンフィグレーション情報ファイル を格納したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする。
- 12. 本体の電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

1回のリブート後、各種PCの画面上にメインメニューが表示され、ハードウェアのセットアップ、各種ユーティリティを管理PCから実行できるようになります。



フロッピーディスク内のコンフィグレーション情報ファイルの内容が既に管理対象装置に設定 されている場合は、リブートせずにメインメニューが表示されます。

13. EXPRESSBUILDERに格納されていないツールを使用する場合は、コンソールレスメニューを終 了し、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブから取り出した後、本体の電源をOFF/ONする。

リモートコンソール接続での作業を終了したら、[MWA Remote Console]ウィンドウの[切 断]をクリックしてください。

ディスクアレイソフトウェア

本製品はオプションでディスクアレイコントローラを接続することができます。

ディスクアレイコントローラに接続されたハードディスクの状態の監視・管理に使用するソフトウェアに ついて紹介します。これらのソフトウェアはディスクアレイコントローラに添付のディスクに格納されて います。ディスクアレイコントローラに添付の説明書を参照して、インストールし、操作してください。

Global Array Manager File Views Administr	tion Window Help					_ @ X
GF FL	6.3	Servers	V DAC960P	DU 💌		
😲 Global Status View				💶 🖂 🖾 Controller View (1	133.255.255.10, Controller-0,	gamroot) 💶 🗙
133.255.255.10	133.255.255.100			Physical Drives	(MB): Logical D	rives (MB):
		20)				4002 RAID 5 4002 RAID 5 4003 RAID 5 4038 RAID 5 4035 RAID 1
					Total Logica Total Physic	el Capacity: 16380 MB sal Capacity: 24616 MB
UserID Se	veritu Scurce	Source Time	Data	Description	SEQ	Local Time
Q 120 4	103.255.255.10	Fri Mar 06 13/22:47 1998	oti 0 okni 1 tgt. 2	Request Sense Data available.	394	Tri Mar 06 13:20.42 1990
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	133,255,255.10	Fri Mar 05 13/22:47 1998 Fri Mar 05 13/22:26 1998	ett: U ehn: 1 tgt: 2 ett: 0 ekn: 1 tgt: 2	Request Sense Llata available. Request Sense Data available.	393	- n Mar 06 13:20:411998 Fri Mar 06 13:20:40 1998
Ŭ 28 4	133.255.255.10	Fri Mar 05 13:22:26 1998	oth 0 okm 1 tgt: 2	Request Sense Data available.	391	Fri Mar 06 13:20:39 1998
U 120 1	00, 65, 65, LT	Pin May 06 12/2 11 1998	cfi U che, O lýt, 4	Hegyest Sense Data avvidabe.	56	n Ma of D20:38 338
For Halp pragg El					NUM	1

Global Array Manager Clientで確認できるアレイディスクの状態画面例

Global Array Manager Server

Global Array Manager (GAM) ServerはMylexディスクアレイシステムを構築している サーバやFibre Channelディスクアレイ (ST 12000)を接続しているサーバの監視・管理 用のアプリケーションです。

• Global Array Manager Client

Global Array Manager (GAM) Clientは、GAM Serverと連携してMylexディスクアレイシステムを監視し、グラフィカルな画面で簡単に管理や操作をすることができます。

• SANArray Manager Client

SANArray Manager (SAM) Clientは、GAM Serverと連携してFibre Channelディスク アレイ (ST 12000)を監視し、グラフィカルな画面で簡単に管理や操作をすることができ ます。

● 自動クリーンアップツール

自動クリーンアップツールはMylexディスクアレイの整合性をチェックし、検出した不整 合を修復するアプリケーションです。

Array Recovery Tool

Array Recovery Toolは、Mylexディスクアレイコントローラに接続されているハード ディスクの状態を監視し、不良ハードディスク(DEAD状態)を検出すると自動的にリビ ルド、整合性チェックを行い、システムドライブを復旧します。